

従業員とともに

労働安全衛生活動

日立マクセルでは、「労働安全衛生基本方針」のもと、労働安全衛生活動を展開しています。2012年度は、「日立マクセルグループ安全衛生委員会」が推進役となって、安全衛生活動の維持向上に努めるとともにOSHMS^{※1}に準じたマネジメントシステムの構築を進めました。また、2011年度に引き続き、国内各事業所の「安全衛生委員会」が推進役として、安全衛生の向上に努めました。

働きやすい職場づくり

日立マクセルは、2009年6月に「次世代育成支援認定マーク(愛称:くるみん)」を取得するなど、働きやすい職場づくりに努めています。2012年度は、企業活動の向上と活性化を目的として、従業員の意識調査を実施しました。結果をうけて、グローバル人材強化への取り組みや職場コミュニケーション促進などの施策を推進しています。また、EAP^{※2}を通じて、社員が抱えるさまざまな悩みについて、外部相談窓口のカウン

セリングを通して解決を図っています。

多様性の確保

日立マクセルでは、「人権の尊重」、「差別的撤廃」を「行動規範」に明記し、平等な雇用・人事システムの構築、人権啓発に取り組んでいます。2012年度の障害者雇用率は、2.10%、定年退職者の再雇用数は31名、外国人雇用数は35名でした。
^{※1} Occupational Safety and Health Management System 中央労働災害防止協会が認定する労働安全衛生マネジメントシステム
^{※2} Employee Assistance Program (従業員支援プログラム)

CSR活動報告

環境報告

地球環境と事業活動を持続的なものにするため環境への負荷を低減する取り組みを推進しています。



WEBでも情報を開示しています。
<http://www.maxell.co.jp/jpn/csr/index.html>

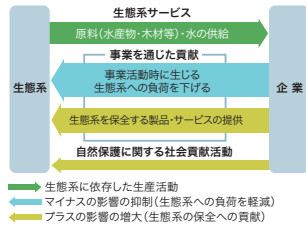
環境マインド&グローバル環境経営

取り組みのポイント

マクセルグループでは、経団連が定めた地球環境憲章を支持し、「企業行動基準」に基づいて、「環境保護行動指針」を策定しています。また、2009年度から「日本経団連生物多様性宣言」の趣旨に賛同し、同宣言の「推進パートナーズ」に参加しています。

また、環境管理体制としては、国内7地区で2008年に統合認証を取得しています。2012年度は、環境関連の事故・罰金・苦情はありませんでした。欧州における化学物質規制である「REACH」への対応としては、2012年度は、CRコイン電池電解液に使用している物質が新規SVHC^{※1}に該当したことでECHA^{※2}に届け出ました。

生態系と企業のかかわり



2012年度の環境行動目標と実績

カテゴリー	項目	2012年度目標	2012年度結果	自己評価
環境マインド&グローバル環境経営	環境リテラシー(活用能力)の醸成	エコマインド教育(eラーニング)の受講推進	100%受講	🌿🌿
	次世代製品とサービスの提供	環境CSRモノづくりの推進	REACH規則対応	🌿🌿
環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス	地球温暖化防止	CO ₂ 排出量削減(国内) 30%削減(1990年度比)	52%削減	🌿🌿🌿
		生産高CO ₂ 原単位 ^{※4} 削減 16%削減(国内)(2005年度比)	14%削減	🌿
	生産高CO ₂ 原単位削減(国内)(海外)(2005年度比)	21%増	🌿🌿🌿	
	輸送時のエネルギー削減(国内)	14%削減	5%削減	🌿
資源の有効利用	生産高廃棄物原単位 ^{※5} 削減	17%削減(国内)(2005年度比)	13%削減	🌿
化学物質管理	VOC ^{※6} 排出割合 ^{※7}	5%以下	3.8%	🌿🌿

^{※1} Substances of Very High Concern(高懸念物質)
^{※2} European Chemicals Agency(欧州化学物質庁)
^{※3} 売上高比率=(環境適合製品売上高)/(マクセルグループの全売上高)
^{※4} 生産高CO₂原単位=(CO₂排出量)/(生産高)
^{※5} 生産高廃棄物原単位=(廃棄物発生量)/(生産高)
^{※6} Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物の略で、トルエンやメチルエチルケトンなどの揮発性を有し大気中で気体状となる有機化合物)の総称
^{※7} VOC排出割合=(排出量)/(取扱量)

【評価基準】🌿🌿🌿:達成 🌿:一部達成

環境会計

2012年度は、省エネの設備投資を中心に実施しましたが、経営環境の厳しさを反映してコストは前年度比で4%減少しました。

	2011年度	2012年度
コスト	1,321	1,272
投資	177	35
経済効果	69	1,140

次世代製品とサービスの提供

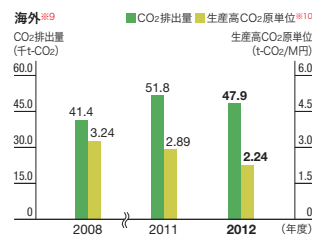
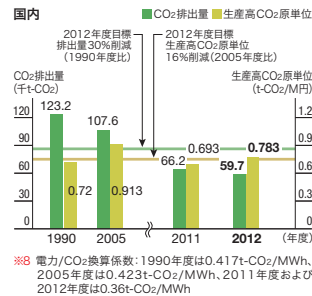
環境適合製品の拡大

環境適合製品セレクトの開発を推進しています。これは日立グループ環境適合設計アセスメント項目に従って、製品のライフサイクルの各段階における環境負荷を評価したもので、2010年までの「スーパー環境適合製品」よりも環境性能の高い基準となっています。2012年度は、シェーバーなど25製品を環境適合製品に、1製品を環境適合製品セレクトに登録しました。

環境適合製品セレクト 認定基準

1. 温暖化防止ファクターまたは資源ファクターが10以上もの(基準年度を2000年度から2005年度に変更、機能を厳選)
2. 業界トップクラスのもの
3. 社外表彰、公的認定を受けたもの
4. 2005年度製品比CO₂削減率50%以上もの

CO₂排出量^{※8}、生産高CO₂原単位



Topics

環境適合製品セレクト カセットハードディスク 「iV」1TB

1テラバイトの大容量で、デジタルハイビジョン映像を約800時間録画できるカセットハードディスク(HDD)です。独自の対衝撃フレームで、幅8cm、縦11cmというコンパクトサイズと耐衝撃性を両立させています。



環境コミュニケーション

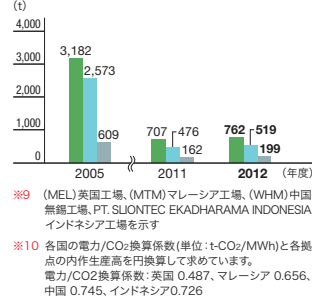
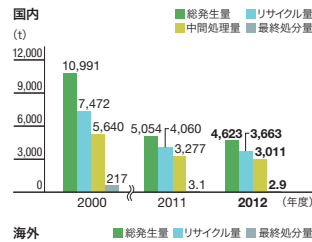
ステークホルダーダイアログ

大阪大学工学部地球総合工学科「地球環境学概論」講座を受講する学生15名と、今回で5回目の開催となる対話の場を設けました。当日は、日立グループの環境ビジョンやマクセルグループの環境活動について、意見を交換しました。



ステークホルダーダイアログ

廃棄物等の状況



環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス

節電への取り組み

国内の各拠点では、2012年度も休日輪番制の導入や設備のデマンド管理など、積極的に節電に取り組みました。海外でも、無錫日立マクセル有限公司(中国無錫工場)などを中心に省エネに取り組みました。また、2013年度には、福知山事業所、小野事業所に、延べ出力2.9MWの太陽光発電設備を導入する計画です。

Topics

溶接機の排気を活用し消費電力を削減

無錫日立マクセル有限公司(中国無錫工場) Zues Zhang
 リチウムイオン電池は、湿度の低いドライルームで製造する必要があるため、除湿に多くのエネルギーを必要とします。そこで、レーザー溶接機からの排気を、再度ドライルームに送り込み活用することで、年間約260MWhの消費電力削減を実現しました。



溶接機の排気をドライルームに送り込む装置

事業活動と環境負荷

INPUT

- ▶ 上水、工業用水、地下水 国内722km³、海外200Km³
- ▶ エネルギー 電気:国内100FMWh、海外67千MWh
 燃料油(軽油、ガソリン)(原油換算):国内1,005千L、海外28千L
 ガス(都市ガス、LPG)(原油換算):国内9,961千L、海外692千L
- ▶ 調達材料(国内マクセルグループの数値)
 鉄系金属材料1,9千トン、非鉄金属材料3,6千トン
 合成樹脂材料1,5千トン、その他金属材料14,2千トン
 その他金属材料18,5千トン
- ▶ PRTR^{※11}対象物質:国内4,719トン、海外164トン

物流54千トン^{※12}

OUTPUT

- ▶ 廃棄物・有価物
 総排出量:国内4,623トン、海外762トン
 最終処分量:国内2,912トン、海外1,992トン
 リサイクル量:国内3,663トン、海外519トン
 PRTR対象物質の排出・移動量:
 国内1,791トン、海外511トン
- ▶ 排水 排水量:国内722千m³、海外200千m³
 BOD^{※13}:国内1,161トン、COD^{※13}:国内1,212トン
- ▶ 排ガス CO₂:国内59.7千t-CO₂、海外47.9千t-CO₂
 SO_x:国内0.6千Nm³^{※14}
 NO_x:国内21.1千Nm³^{※15}

^{※11} Pollutant Release and Transfer Register
^{※12} 環境汚染物質排出・移動登録
^{※13} 国内マクセルグループの数値
^{※14} Biochemical Oxygen Demand
^{※15} Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)
^{※16} 国内特定施設の排出量